

「流域治水プロジェクト」 の充実について

令和4年3月8日

信濃川水系(信濃川下流)
流域治水協議会

昨今の豪雨災害の激甚化・頻発化を受け、河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、流域治水全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換重要であるとの認識に基づき、各水系にて設置した「流域治水協議会」(以下協議会という。)での議論を通じて、国、流域自治体、企業等が協働して流域全体で実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、令和3年3月に公表した。

各水系においては、協議会に参画する関係者との連携を図りつつ、本プロジェクトに基づく取り組みが実施されているところであるが、流域治水の一層の推進により浸水被害の防止・軽減を図るためには、**共通の指標に基づき取組の進捗状況を「見える化」し、積極的・先進的な事例を踏まえた、プロジェクトの更なる充実を全国的に図ることが重要。**

プロジェクトの充実内容

1. プロジェクトの更新

- 1-1. 事業箇所の更新
- 1-2. グリーンインフラの取り組み
- 1-3. 水災害リスク情報の充実

2. 指標を活用した流域治水プロジェクトの更なる推進



各流域治水協議会にて議論



あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」のイメージ

令和3年3月に公表した「流域治水プロジェクト」について、最新情報に更新

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策：「ため池等既存施設の補強や有効活用」を追加

信濃川水系流域治水プロジェクト（千曲川・信濃川）【参考資料 信濃下流詳細図】

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～

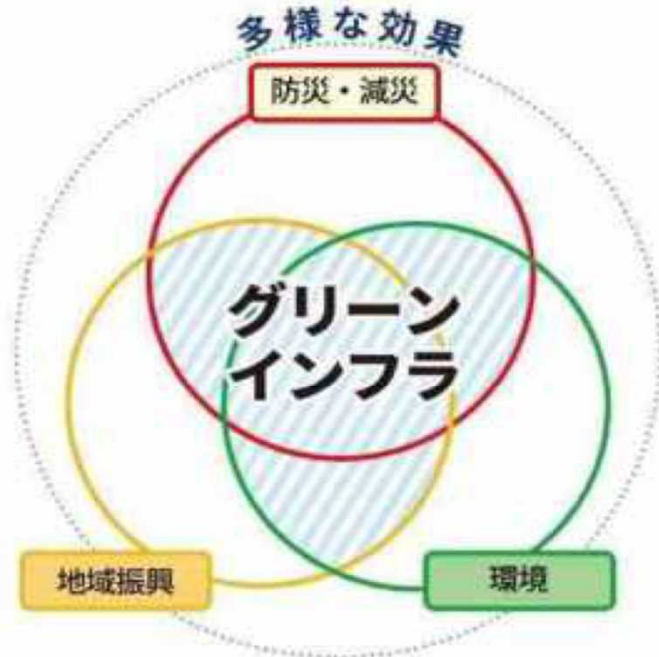
○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、信濃川水系（信濃川下流）においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成23年7月新潟・福島豪雨と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



1-2. グリーンインフラの取り組み（グリーンインフラを取り入れた流域治水）

流域治水の取り組みにおいては、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの考えを推進し、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全または再生することが重要であることからグリーンインフラの全体像をとりまとめ。

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフトと両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組（国土形成計画（平成27年8月閣議決定））



自然環境が有する多様な機能を活用し、
持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める
グリーンインフラを取り入れた流域治水の推進

河川環境分野で可能な取り組みの事例

流域治水プロジェクト × グリーンインフラ

防災・減災

環境

地域振興

- 貯留機能保全区域を創設し、沿川の保水・遊水機能を有する土地を保全
- 治水対策における多自然川づくり
- 自然環境の保全・復元などの自然再生
- 健全な水循環系の確保(水環境)
- 生物の多様な生息・生育環境の保全・創出による生態系ネットワークの形成
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出（かわまちづくり）
- 河川環境学習の促進
- インフラツーリズム事業者との協働による賑わい創出、地域活性化
- ミズベリング・プロジェクトの推進による賑わい創出、地域活性化

社会的課題

- 安全・安心で持続可能な国土
- 国土の適切な管理
- 生活の質の向上
- 人口減少・高齢化に対応した持続可能な社会の形成

自然環境が有する機能

- 良好な景観形成
- 生物の生息・生育の場の提供
- 浸水対策（浸透等）
- 健康・レクリエーション等文化提供
- 延焼防止
- 外力減衰、緩衝
- 地球温暖化緩和
- ヒートアイランド対策等

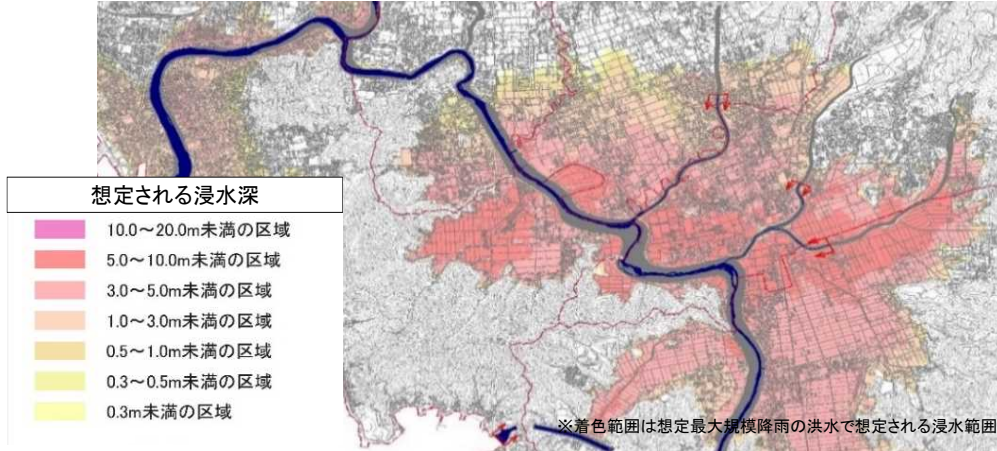
※第4次社会資本整備重点計画、国土形成計画より、グリーンインフラに関連する課題を抜粋

1-3. 水害リスクの充実

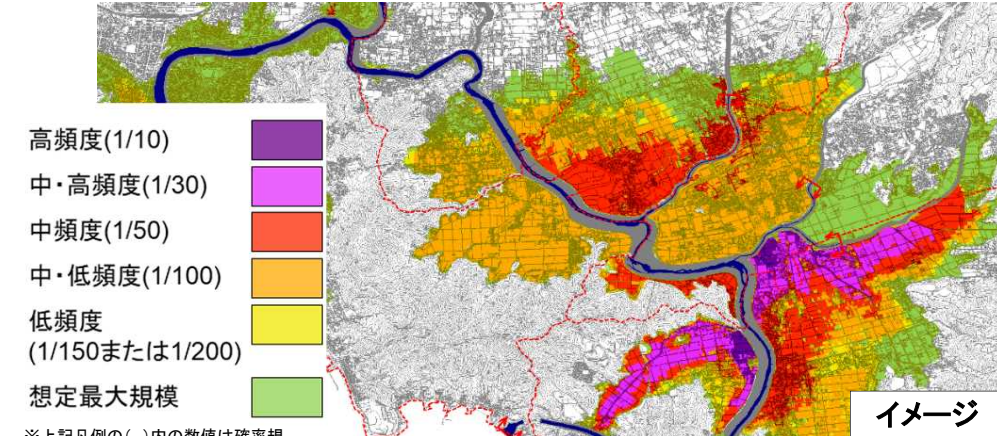
これまでは想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供してきたところ。
 今後は、想定最大規模に加えて、より頻度の高い降雨による浸水範囲を頻度毎に示した水害リスクマップを新たに整備し、水害リスク情報の充実を図る。

水害リスク情報の充実

○水害ハザードマップ(従来)



○水害リスクマップ(新規)



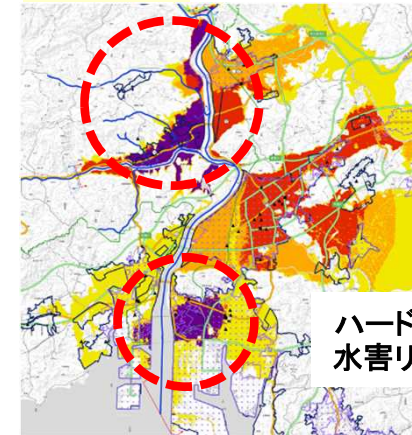
※上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。

※現在の浸水想定区域図に加えて、より頻度の高い複数降雨による浸水範囲を頻度毎に示した図

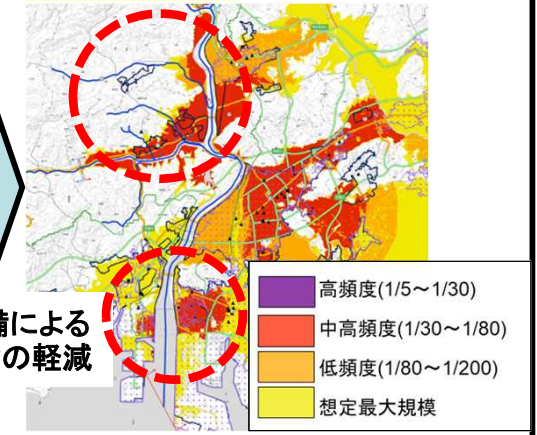
整備効果の見える化

- ・現在のリスクに加え、将来のリスクも提示(整備効果の見える化)
- ・土地利用規制や居住の誘導を促進
- ・きめ細やかな企業BCPの作成、水害保険への水害リスクの反映

現況



整備後



ハード整備による
水害リスクの軽減

整備効果の見える化のイメージ

2. 指標を活用した流域治水プロジェクトの更なる推進

「流域治水プロジェクト」における主要な各取組に係る**数値目標に対する進捗状況が見える化**するため、第5次社会資本整備重点計画(令和3年5月28日閣議決定)及び流域治水推進行動計画(令和3年7月30日策定)等に記載されている取組を参考に、**流域内の自治体や関係者が連携し、多層的な流域治水の取組を推進するための指標を設定し、「見える化」を図る。**

イメージ

↓ハード整備の進捗状況を確認するための指標

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備率



整備率 ○○%

(令和○年度末時点)

農地・農業用施設の活用



○○市町村

(令和○年○月時点)

流出抑制対策の実施



○○施設

(令和○年○月時点)

山地の保水機能向上・土砂・流木対策



治山対策・森林整備
○○箇所
(令和○年○月時点)

砂防事業による保全箇所
○○施設
(令和○年○月時点)

↓ソフト進捗状況を確認するための指標

立地適正化計画における
防災指針の作成



○○市町村

(令和○年○月時点)

水害リスク情報の提供



洪水浸水想定
○○河川
(令和○年○月時点)

内水浸水想定
○○団体
(令和○年○月時点)

高齢者等避難の実効性の確保

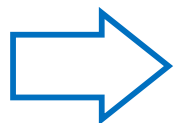


避難確保計画
○○施設
(令和○年○月時点)

個別避難計画
○○市町村
(令和○年○月時点)

令和3年
3月30日

信濃川水系流域治水プロジェクト公表

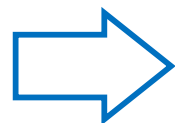


「流域治水プロジェクト」
の充実(案)

事業箇所 の更新	グリーン インフラ の取組み	水害リス ク情報 の充実	指標を 活用し た流域 治水 プロジ ェクト の 更なる 推進
-------------	----------------------	--------------------	---

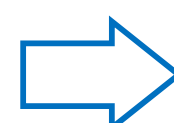
令和4年
2月15日

信濃川水系(信濃川下流)流域治水協議会 幹事会



令和4年
3月8日

信濃川水系(信濃川下流)流域治水協議会



令和4年
3月末

信濃川水系流域治水プロジェクト
更新・公表